

以前から小佐々地域が、いりこの産地であることは知っていましたが、どこで生産されているのかまでは知りませんでした。今回初めていりこの産地である、日本本土最西端の地・神崎鼻がある小佐々町神崎地区へ行き、海岸沿いに並ぶ加工場や漁船など、いりこ産地特有の風情に感動しました。また加工現場で見掛ける、生産者やその家族、地元在住の従業員など老若男女でいりこを選別する姿は、家族的な雰囲気、心が和みました。取材へのご協力ありがとうございました(Y)



元気な朝ごはんレシピ

夏野菜のちやちやっとなちゃんぷる〜



考えていただいた人 藤田幸子(ふじた・さちこ)さん
平成19年度ヘルシークッキングコンテスト
一般部門応募レシピ

材料・4人分

- オクラ 4本
- トマト 1個
- 卵 2個
- えのき 1袋
- めんつゆ 大きじ2 (2倍濃縮)
- サラダ油 大きじ1

作り方

- 1 オクラを2cm幅に切る。
- 2 えのきを半分に切る。
- 3 トマトを1口大に切る。
- 4 フライパンを熱しサラダ油を入れ、溶き卵を半熟に焼き、取り出す。
- 5 フライパンで①②③の順に強火でさつと炒める。
- 6 ⑤に④の卵を加え、全体に火が通ったら、めんつゆを回しかける。

1人分の栄養価

熱量87kcal、たんぱく質4.4g、脂質5.7g、塩分0.7g

ポイント

冷蔵庫にある材料を使った、栄養たっぷりな手軽な朝ごはんです。5分もあれば簡単にできます。

市長日記

いりこの効用！

あるイベントでのことです。骨密度を測るコーナーがあり、そこの担当者に勧められるままに私も骨密度の測定をしてもらいました。結果がプリントアウトされ、そのデータを見た担当者が、げげんな顔をしながら「失礼ですが年齢を確認させてください。そしてもう一度測定させてもらってよいでしょうか」と一言。私は「異常な数値なのかな」と一抹の不安を感じながらも再度測定してもらいました。結果は最初と変わりがなかったようで、担当者から「いや驚きました。20代の平均値と同じぐらいの数値が出ています。これだったらまず骨粗しょう症の心配はないですね」と言われ、「ヨーグルトとか牛乳とか毎日お飲みですか?」と聞か

れました。私が「いえ、両方ともあまり飲む機会がありません。でも『いりこ』が好きで昔からよく食べてましたね」と答えると、担当者は大きくうなずいておられました。

皆さんは本市の「小佐々いりこ」が日本一ってご存知ですか? 今月の特集のとおり、「小佐々いりこ」は日本一の生産量で、しかも味、品質ともに抜群、カルシウムもたっぷりです。そのままお子さんのおやつとして、また味付けして、おかずやお酒のおつまみにもいいですよ。骨粗しょう症の予防に特にお勧めします。地産地消で健康になりましょう!

佐世保市長 朝長 則男



中国・四川大地震に係る義援金

市民の皆さんからいただいた中国・四川大地震に係る義援金は総額680万円となり、6月12日に中華人民共和国駐長崎総領事館の滕安軍(トウアングン) 総領事へお届けしました。ご協力いただきました市民の皆さんに心からお礼を申し上げます。

(左から) 松尾市議会議長、朝長市長、滕安軍総領事

家庭系ごみ有料化制度見直し案に対するご意見募集の結果

「指定ごみ袋購入補助券制度」などに対する市民の皆さんからいただいたご意見と市の考え方を要約してお知らせします(5月9日から22日に支所やホームページなどで募集)。意見総数41件(18人)

主な意見	市(環境部)の考え方
ごみ処理券方式に賛成。慣れてきたので変えなくていい▶補助券で買う方が不便▶補助券の印刷費が無駄。最初から手数料込みで袋を買う方が良い。	現制度導入後、家庭系ごみの排出量は約3割減少しました。効果も継続しているため市民の皆さんに減量意識が定着したことがうかがえます。今回の見直しは現制度の課題である「ごみ処理券を張ることが面倒」「袋が破れやすい」など市民の皆さんからのご意見を踏まえ、制度の充実を図るものです▶補助券は利便性向上のため財布に入れやすいサイズなどを検討しています▶新制度へ移行しても新たな経費が出ないよう努めていきます。
余ったごみ処理券はどうなるのか?	来年1月から新制度を実施する予定ですが、処理券は6月まで使用できるように移行期間を設けます。
ごみ袋を黄色にするなど、ごみステーションを荒らすカラスの対策をしてほしい。	カラス対策用の袋は色を黄色にするだけでなく、特殊な加工が必要で、製造コストが2倍以上になるため今回は採用しませんが、引き続き検討していきます。
施設へのごみ持ち込みを有料化したら不法投棄が増えるのでは?	不法投棄のパトロールはこれまでどおり実施していきます。
施設へのごみ持ち込みは、持ち込む人がガソリン代を自己負担しているため不公平でないと思う。	ごみ処理券には収集運搬と処分の両方の経費が含まれており、ごみを持ち込む人と有料券を張ってステーションに出す人との不公平をなくすため、施設へ持ち込む場合は処分経費を負担していただくように今回見直すものです。

ごみ処理券方式から購入チケット方式へ

「家庭系ごみ有料化制度見直し」については、6月定例市議会でごみ処理券廃止などを盛り込んだ条例案、関連補正予算案が可決されました。新しい制度は来年1月から実施予定で、詳細については今後、町内説明会や本紙などでお知らせしていきます。

環境部総務課 ☎31-6520

指定ごみ袋購入補助券制度(購入チケット方式)

市指定ごみ袋を購入する際、市から送付された補助券を使って購入する制度。補助券が有る場合は袋代だけで購入でき、無い場合はごみ処理手数料を加算した金額で購入することになります。



歴史散歩



第517回

嘉永五年建築の店(相浦町)

平戸藩政時代から領内の重要な海運の拠点だった相浦で、安永四(一七七五)年の創業以来現在まで、二百三十三年間店を営んでいるのが丸屋呉服店です。創業の年にちなんで安永を姓とし、店主の名は代々利平を襲名しています。店の建物は嘉永五(一八五二)年の建築で、この年号が書かれた家紋入りの鬼瓦は、葺き替えられた後も大切に保存されています。

現在第七代の安永利平さん(六十六歳)は「代々賤津浦と呼ばれた海岸の埋め立てをしたり、万里丸という帆船で手広く廻船業を営み、明治維新以降は質屋もするなど事業を展開してきました」と話されました。

事業でもうけたお金は藩主の松浦家に上納したと思われ、同家には華麗な時絵を施した三段重ねの漆塗り重箱が伝えられています。



時絵の中には松浦家の家紋である三ツ星と梶の葉も描かれています。このご下賜品に加え、平戸唐津系の大ぶりな抹茶わんもあり、これには梶の葉紋が描かれており、たびたび上納していたようです。

もう一つ、ヒヨドリと思われる鳥を描いた掛け物も伝わっています。「政」との署名があり、明応七(一四九八)年、平戸松浦に攻められて、城と共に討ち死にした大野・大智庵城主・宗家松浦丹後守政の筆と伝えられています。掛け物は茶掛とも呼ばれ、茶の湯が盛んだった戦国時代、絵の筆者に敬意を表して床の間に迎え入れるという意味がありました。

現在はひっそりと静かな相浦の中心街ですが、江戸時代から明治、大正、昭和の前期には黒ダイヤブームに沸き、石炭景気などで活況を呈しました。街には繁栄を物語る由緒ある家

筒井隆義